

2006年8月の重大ニュース

日本の父、子どもと過ごす時間短く悩む

日本の父親が平日に子どもと過ごす時間は1日あたり3.1時間で、海外5か国(米、仏、韓、スウェーデン、タイ)と比べると韓国に次ぎ下から2番目だったことが、独立行政法人・国立女性教育会館の調査でわかった。時間の短さに悩む父親は41.3%で、10年あまりの間に13.7(ポイント)増えた。調査は昨年の上半期に、12歳以下の子どもを持つ親各1000人に実施した。(1日)

自殺予防教育を本格化

年間の自殺者が98年から8年連続で3万人を超えるなか、文部科学省は、児童・生徒の自殺を防ぐため、専門家による研究会を今月中にも設置することを決めた。今年度末をめどに課題と対策などをまとめ、学校での取り組みに生かす考え。自殺対策を国や自治体の責務と規定した「自殺対策基本法」が6月に成立したことが背景にある。(3日)

大学・短大進学率過去最高の52.3%

浪人生も含めた大学・短大への進学率は今春、52.3%と過去最高になったことが、文部科学省が発表した学校基本調査でわかった。このうち女子は51.0%で、初めて5割を超え、大卒、短大卒、高卒の就職率も上昇した。(10日)

携帯持つ中学生「見知らぬ人とメール」4割

携帯電話を持っている中学生の4割が、会ったことのない「メル友」と日常的にメールをしていることが、群馬大の下田博次教授らの共同調査でわかった。また、メールのやりとりをきっかけに、メル友に会ったことがある中学生は32%にのぼった。(15日)

出生数、5か月連続前年超す

厚生労働省が発表した人口動態統計の速報で、今年6月に生まれた子どもの数(出生数)は9万2047人で昨年より2632人多く、5か月連続で前年同月を上回ったことがわかった。このままのペースを保てば、06年の合計特殊出生率(1人の女性が生涯に産む子どもの数の目安)は05年の1.25を上回るとみられる。(21日)

冥王星が惑星から「降格」

チェコのプラハで開かれた国際天文学連合(IAU)総会で、惑星の新しい定義の採決が行われ、太陽系の惑星を、冥王星をはずした8個とする案が賛成多数で可決された。(24日) = 3面「ほっとニュース」に記事があります。